



ニュースレター No.37 2001年(平成13年)2月

NEWSLETTER

INTERNATIONAL LAKE ENVIRONMENT COMMITTEE FOUNDATION

財団法人 国際湖沼環境委員会

— よりよい湖沼管理をめざして —

このニュースレターには英語版もあります。

第9回世界湖沼会議開催の詳細決まる

— 発表募集・参加登録開始 —



びわこホール (湖沼会議会場)

世界湖沼会議実行委員会では、このたび2001年11月開催の第9回世界湖沼会議の会場や発表・登録関係の内容を決定し、第2回の案内書を発行した。同案内書の発行とともに、発表の募集と会議参加登録が開始された。

会議の構成については、地球規模で深刻化する淡水資源問題等に関する基調講演のほか、全体会議の琵琶湖セッションと5つの分科会が開かれる。また、特定のテーマについて内容を深めた議論をするため、参加者自ら企画する「自主企画ワークショップ」や、議員、市民、NGO、大学生、企業関係者などが世界湖沼会議に併せて自主企

画する「自由会議」など多彩な会議が計画されている。この他、琵琶湖の現状とその下流域を含め、流域全体で人と湖のかかわりについて理解を深めるための琵琶湖視察や、各種テクニカルツアーが準備されている。

会場については、開会式・閉会式や全体会議及び琵琶湖セッションは琵琶湖ホールで行い、分科会やポスターセッションについては大津プリンスホテルで開催する。どちらも大津市内の近接したロケーションで、円滑な会議運営が期待される。この他、滋賀県内数箇所ですテライト会場が設けられ、環境保全にちなんだ交流イベントが市町村やNGOなどによって計画されている。

登録料については、一般登録に加え、学生登録、1日登録などが設けられ、参加しやすい工夫が行われている。4月30日までに登録申込みをすると、早期登録料金が適応される。

発表の募集については、学術論文はもとよりビデオ、演劇、詩なども広く発表に含め、市民を含め多くの方々から意見が出せるようにした。なお、発表の申込みには発表文のほか、所要の書類を3月末までに提出していただき、その後審査が行われる。会議には、発表を通じ多くの意見を反映するとともに、成功例も失敗例もあわせて紹介することが湖沼の保全には欠かせないものであることから、多くの発表を募ります。

今回の 話題

・湖沼会議第二回案内書概要.....	2	・環境教育研修.....	7
・第五回リピングレイクス会議.....	4	・NGO 水質研修.....	7
・リピングレイクス会議での知事挨拶.....	5	・世界の湖沼 (トルカッパ湖)	7
・危機にある湖沼.....	5	・お知らせ.....	8
・プレ湖沼会議 NGO ワークショップ.....	6	・新刊案内.....	8
・世界の湖沼展望.....	6		

第2回案内書 概要

◆会議スケジュール

2001年11月		全体会議・分科会等	自主企画ワークショップ ・自由会議等※	サイドプログラム
会議 前プロ グラム	8日(木)			UNEP-IETC / 滋賀県 / ILEC共同シンポジウム
	9日(金)			
10日 (土)	午前	琵琶湖視察・テクニカルツアー		国際水環境フォーラム
	午後	琵琶湖視察・テクニカルツアー		
11日 (日)	午前	琵琶湖視察・テクニカルツアー		
	午後	琵琶湖視察・テクニカルツアー		
	夕	招待者レセプション		
12日 (月)	午前	開会式／全体会議Ⅰ		
	午後	琵琶湖セッション		
	夕	ウェルカムパーティー		
13日 (火)	午前	琵琶湖セッション		
	昼食	分科会(ポスターセッション)		
	午後	分科会(オーラルセッション)		
	夕	分科会ワークショップ	自主企画ワークショップ	
14日 (水)	午前	分科会(オーラルセッション)		
	昼食	分科会(ポスターセッション)		
	午後	分科会(オーラルセッション)		
	夕	分科会ワークショップ	自主企画ワークショップ	
15日 (木)	午前	分科会(オーラルセッション)		びわ湖国際環境 ビジネスメッセ
	昼食	分科会(ポスターセッション)		
	午後	分科会(オーラルセッション)		
	夕	分科会ワークショップ	自主企画ワークショップ	
16日 (金)	午前	全体会議Ⅱ		
	午後	全体会議Ⅱ／閉会式		
	夕	フェアウェルパーティー		
会議 後プロ グラム	17日(土)			湖沼水質解析 トレーニングコース
18日(日)				

※第9回世界湖沼会議の期間中およびその前後には、議会議員、市民、NGO、学生、企業関係者などが自主企画する会議等(自由会議)が計画されます。これらの自由会議については、今後、具体的な内容などが決定されたものから、随時ホームページ等に掲載されるほか、全体計画が第3回案内書に掲載されます。

◆参加登録の申込方法

すべて参加者は、第2回案内書添付の参加登録申込書に必要な事項を記入のうえ、申し込んでください。参加登録申込に関しては、ホームページでも受け付けます。なお、発表文応募者も参加登録の申込が必要となります。各種申し込み用紙は、ホームページからもダウンロードできます。

登録料金表

区分	通常登録		1日登録
	2001年4月30日 日まで (早期登録)	2001年5月1日 以降2001年10 月20日まで	2001年10月20日 まで
一般登録	¥18,000	¥20,000 *	¥3,000 *
学生登録	¥14,000	¥15,000 *	¥1,500 *

*当日登録の場合は、この金額になります。

また、参加の登録は、「一般登録」と「学生登録」があり、それぞれ会議の全日程に参加できる「通常登録」と1日毎に参加できる「1日登録」の2種類があります。

		通常登録	1日登録
発表文応募		○	—
会 議 へ の 参 加	琵琶湖視察・テクニカルツアー	—	—
	開会式	○	○
	全体会議Ⅰ	○	○
	琵琶湖セッション	○	○
	分科会(オーラルセッション)	○	○
	分科会(ポスターセッション)	○	○
	分科会ワークショップ	○	○
	自主企画ワークショップ	○	○
	全体会議Ⅱ	○	○
	閉会式	○	○
会 議 資 料	プログラム	○	○
	発表文集	○	—
	発表文概要版	○	—

※1日登録者は、登録された日の会議行事のみに参加できます。
※琵琶湖視察・テクニカルツアーへの参加には、別途参加料が必要です。

◆分科会発表の募集概要

第9回世界湖沼会議の分科会における発表について、事前の応募を求めます。発表文は選考され結果が通知されます。また、ビデオ、演劇などによる発表の場合も発表文の提出をお願いします。

(基本的事項)

- ・発表文提出数：オリジナル原稿1部、コピー3部 計4部
- ・使用言語：日本語または英語
- ・ページ数：A4判 4ページ以内(図表、写真を含む)
- ・幅広い分野間で議論することが世界湖沼会議の開催目的ですので、発表文および発表内容が他の分野の人にも理解できるような工夫をお願いします。
- ・発表文は過去の国際的な会議等に未発表のものに限ります。
- ・発表文には、引用文献を記載してください。
- ・応募された発表文は返却されません。
- ・採用された発表文は、そのまま発表文集の原稿として使用しますので、枠外にはみ出さないでください。
- ・発表文 2001年3月31日(土) 締切(消印有効)

(発表形式概要)

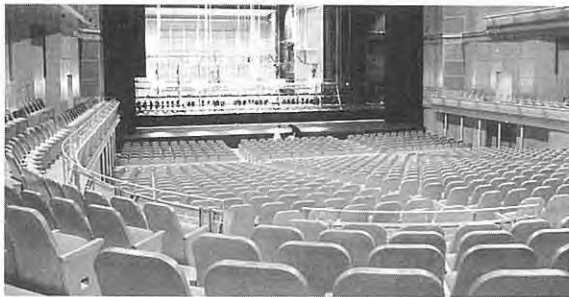
- ・オーラル発表：発表では、コンピューター(パワーポイント)、オーバーヘッドプロジェクター(OHP)とスライド(35mm)が使用できます。
- ・ポスター発表：ポスター掲示用として、1発表当たり900mm(横)×2100mm(縦)のパネル板が提供されます。
- ・日本語⇄英語の同時通訳が行われます。
- ・発表時間等は、標準として、発表時間は概ね15分、質疑応答時間は概ね5分となっています。

◆全体会議 I

会場：びわ湖ホール

(基調講演)：参加者が会議の開催趣旨を理解し共有するため、国内外の学者、ジャーナリストなどによる基調講演が予定されています。

内容は、淡水資源問題、世界の湖沼・陸水を取りまく環境問題、文化や人間との関わりから見た湖沼環境の重要性、市民の側から見た湖沼環境の保全活動のあり方についての話となります。



びわこホール会議場

◆琵琶湖セッション

会場：びわ湖ホール

琵琶湖セッションは、会議の初日の開会式、基調講演に続いて、全体会議として開催されます。このセッションでは、琵琶湖をモデルケースとして取り上げながら、世界の湖沼の環境保全のあり方を考えます。このため、会議参加者が事前に琵琶湖の状況を理解できるように、会議の直前に「琵琶湖視察」が準備されています。

会議は、①集水域の土地利用と洪水・早ばつとの戦いの歴史、②社会・経済構造の変化と湖への汚濁負荷の増加、③水質汚濁の進行、水質汚濁対策、④生物多様性の低下、生態系の破壊の視点で議論され、上下流間問題の解決、流域開発がもたらす負の影響への対応、生態系の保全と回復、

湖沼の総合的な保全のための意識変革について全世界的に議論されます。

◆分科会

会場：大津プリンスホテル

各分科会は、オーラル(口頭)セッションとポスターセッションから構成されます。ポスターセッションの会場はオーラルセッション会場に隣接して設けられ、昼食休憩時を利用して、ポスターセッションが行われます。各分科会での発表希望者は、「分科会発表の募集」を参照のうえ、申し込んでください。

<第1分科会> 文化と産業の歩み

- 環境共生のライフスタイルを考える -

■基調鼎談 「水の未来を語る」

人間と自然のかかわりの原点である「人と水」のあり方を文明的な視点から考察します。新しい世紀を迎える節目に、多様化する価値の共存を模索することが求められています。人が創り出すべき水の未来像を取り上げて、「文化と産業」分科会への導入を図ります

■サブセッション

1-A) 「つくる」 1-B) 「あらう」 C) 「あそぶ」 D) 「いきる」

<第2分科会> 環境教育の新たな展開

- 学んで・知らせて・共に活動する -

■サブセッション

1-A) 環境保全型社会への変換 2-B) 環境学習教材・プログラム 2-C) 住民の環境意識と行動 2-D) 行政と住民の役割

■子ども湖沼会議

中学生を海外・国内から招待し、子どもによる議論の場を11月14日(水)(分科会2日目)の午後に設けます。子どもの目から見た各国・地域における環境問題の実態・環境教育の実践、水環境に対する想い等を自由に語ってもらいます。

<第3分科会> 飲み水と汚染

- きれいで安全な水を創る -

■パネル討論 「湖沼水質問題の展開と地域社会の役割(仮題)」

上記テーマを概観しながら、住民、科学者、行政関係者、産業人、ジャーナリストといった各分野の代表が、湖沼水質改善のための協力をいかに進めるべきかについて討論する。

■サブセッション

3-A) 有害物質汚染問題 3-B) 富栄養化問題 3-C) 内分泌攪乱化学物質等の問題 3-D) 非特定汚染源問題 3-E) 水質改善技術 3-F) 大気汚染の水質への影響 3-G) 内湖および湿地の水質浄化機能 3-H) 住民と水質問題

<第4分科会> 水辺の生態系と暮らし

- 壊れやすい水と陸との接点(エコトーン)をどのようにするか -

■基調講演

「沿岸湿地生態系の持つ特別な価値と、これを次世代に伝えるために市民が果たすべき役割(仮題)」 ダニエル・ネービッド 国連訓練調査研修所(UNITAR) 上席管理官[予定] 沿岸湿地の持つ価値と、その保全のために住民参加がどうあるべきかについて、国際的に重要な湿地の保全を目的としたラムサール条約初代事務局長を務めたダニエル・ネービッド博士の講演を予定しています。

■サブセッション

4-A) 生態系の現状・変化・危機 4-B) 湖浜帯(エコトーン)の価値・機能・保全 4-C) 生態系と人間の共生 4-D) 生き物と湖沼管理・修復 4-E) 健全な生態系の道

